

4年ぶりに新山高原まつり～郷土芸能や紙飛行機コンテスト

2014年6月17日

震災で休止していた大槌町の「新山高原まつり」が4年ぶりに復活しました。6月15日、新山高原で開かれた祭りでは、自作の紙飛行機による対空時間コンテストがあり、神楽、虎舞、鹿子踊が勇壮、華麗な舞を見せました。

新山高原は町の西端に位置し、標高、約1千メートル。オレンジ色が鮮やかなレンゲツツジが群生し、一帯には、風力発電用の巨大な風車が43基あることで知られています。展望台には望遠鏡が設置され、大槌湾を間近に見ることができます。

オープニングセレモニーで碓川豊町長は「震災で途絶えていた祭りの復活は感無量」とあいさつ。主催した町観光物産協会の■■■■会長は「震災から3年がたち、やっと祭りが開催できる環境が整った。新山高原まつりは、これから毎年、開いていきたい」と話しました。

郷土芸能は安渡大神楽、大槌城山虎舞が演舞し、鹿子踊は白澤、金澤、上京（かみよ）、吉里吉里、徳並の5団体がそろって群舞しました。5団体が公式の場で一緒に舞うのは初めてことで、祭りを通じて友好の輪を広げました。

滞空時間の長さを競い合う紙飛行機のコンテストは日本紙飛行機協会の協力を得て行われました。自作の紙飛行機を風に向かって飛ばします。風に乗ることができるかどうか滞空時間に影響します。指導した日本紙飛行機協会事務局長の■■■■さんは「自然と向き合い、科学する心を養います。多くの人に親しんでほしい」と話しました。

ツツジは花の盛りを過ぎていましたが、参加者は、新緑の高原で、ゆったりとした時を過ごしました。